2024.01.15 号外

立憲民主
RIKKEN MINSHU

立憲民主党 立憲民主編集部
〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
三宅坂ビル7F
Tel.03-3595-9988
Fax.03-3595-9088

守谷市議選予定候補者として

小菅（こすげ）勝彦（かつひこ）さん

立憲民主党公認を決定しました！

それぞれの“生きる”により添う守谷市政へ。

小菅さんの政策を紹介します。

福祉・医療

- 歳を重ねても孤独を感じずに社会と関わりがもてる地域づくり
- 誰もが利用しやすい公共施設や道路等のバリアフリー化
- 利用者も家族も安心できる医療と介護の連携

教育・文化

- 子どもたちが命を大切にし、他者を尊重できる心のケア施策の拡充
- 不登校の子どもが学びや相談を受けられる環境整備
- 芸術・文化、スポーツの振興
- 表現の自由を守る

暮らし

- 市民の移動を保障する公共交通の構築
- 生活道路や上下水道など地域基盤整備と適切な維持管理
- 仕事と両立できる子育て施策の充実と働き方改革の推進
- 東海第二原発の再稼働反対。再生可能エネルギーのさらなる推進

インタビュー

守谷市議会議員の小菅勝彦さんにお話をお聴きしました。

―小菅さんは、どのような子ども時代を過ごしましたか？

小菅：私の幼少期、高野小学校は学年が１学級で、男女合わせて２６人でした。放課後は、近所の川で釣りをしたり、野山を駆け回ったりして、とにかく毎日遊んでいました。
小学６年生のときに鼓笛隊でトランペットを担当し、それがとにかく楽しかったです。今は、バリトンサクソフォンを吹いています。

―どのようなサラリーマン生活でしたか？

小菅：音楽の専門学校を卒業後、事務機販売会社に就職しました。最初は営業職でしたが、なかなか実績が上げられず、技術職に配置換えになりました。もともと機械を触ることが好きだったので、仕事を頑張りました。地元の守谷市内を担当したときは、学校などの事務機器メンテナンスでお伺いしました。

―なぜ市議会議員をめざそうと思いましたか？

小菅：1993年の政権交代で政治に関心を持つようになったのですが、支持する政党などは特にありませんでした。政治にコミットし始めたのは、2017年に立憲民主党が結成されたことがきっかけです。
「まっとうな政治」「草の根の民主主義」に共感し、立憲パートナーズに登録しました。そのとき立憲民主党は守谷市議選の候補者を募集しており、それなら私がプレーヤーになろうと決意しました。

―市議としての4年間、どのような議会活動をしましたか？

小菅：市議会議員とはどのような活動をするべきなのか？を模索する４年間だったように思います。コロナ禍に突入し、市民の皆さんと直接コミュニケーションができずに苦労しました。
今は議会での質問も通常通り行えるようになり、市民の声をたくさんお聴きし、議会活動に反映できるよう努力しています。

―最後に、小菅さんのこだわりを教えてください。

小菅：私の兄は、聴覚に障がいがあります。私は障がい者を特別視するのではなく、少し手助けを必要としている市民だと考えています。だから、一人ひとりが大切にされる政策が標準になる必要があると思います。
また、心豊かに暮らせるよう、市民による芸術・文化活動が盛んな守谷市をつくることが私の使命だと考えています。だから、芸術・文化等における表現の自由を大切にしていきたいと思っています。
そうした思いを「それぞれの”生きる”に寄り添う」というキャッチフレーズに込めました。

―ありがとうございました。

【小菅勝彦プロフィール】1964年生まれの現在59歳。守谷市出身で、高野小学校、守谷中学校、取手一高、市川音楽専門学校を卒業。地元の事務機器販売会社に就職し、約32年間サラリーマン生活。趣味はサックスを吹くことと、鹿島アントラーズを応援すること。その応援でスタジアムで出会ったパートナーと、母、妹の4人で高野に在住。

小菅勝彦事務所／守谷市高野5067-2　電話：070-3848-4638

https://kkosuge.com/

HP　LINE